よつろく

学校だより　令和２年９月
新宿区立四谷第六小学校
校長　児玉　純

【　教　育　目　標　】
・自ら学ぶ子ども
・たくましい子ども
・思いやりのある子ども

ホームページ　http://www.shinjuku.ed.jp/es-yotsuya6　メールアドレス　yotsuroku@shinjuku.ed.j

想像力と人を想う力

校長　児　玉　　純

処暑（８月２３日）　…　暑さの峠が過ぎ、朝夕には涼しい風が吹くころ。虫の声が心地よく、穀物が実るころ。

新型コロナウイルスに対する新しい生活様式と同様に、昔ながらの日本の季節感や暦を見ながらの生活も変えていかねばならないことを実感させられる、厳しい残暑が続きます。

短い夏休みが終わり、子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。今年の夏は、町会のいろいろな行事が取りやめになり、子供たちは自粛ムードの中でご家庭や地域で過ごしたのではないかと思います。そんな中ではありますが、何か一つでも普段できない経験ができり、普段気付かないことに気付いたりできた夏休みであったのではないかと思います。いろいろご配慮をしていただき、工夫して過ごしてくださった保護者の皆様や地域の方々、関係者の皆様に心から感謝いたします。

「パラリンピックを通じて子供たちに育んでほしいのは『人を想う力』」これは、義肢装具士の臼井二美男さんという方のインタビュー記事（「日本教育　４・５月号」　公益社団法人　日本教育会）のタイトルです。義肢を作る上でのキーワードとして、「想像力」を挙げておられます。義肢を必要としている人それぞれの生活の場面を考え、使い勝手や安全性などいろいろ想像しながら制作にあたっておられるそうです。一番よくないのが、障害に対する負のイメージを子供たちに与えてしまうこと。私達大人が、子供たちにマイナスイメージを与えるような言葉や態度を見せていないか、自らを振り返ってみたいと思います。私の甥もパラリンピアンです。片足が無く義足の生活をしていて、たくさん苦労があると思います。でも、彼の思考はいつも前向きで、周りには常に笑顔があふれています。これからも隣にいる仲良しの友人だけでなく、障害者や高齢者、新型コロナの感染者など誰に対しても、自分の想像力を目いっぱい働かせて、人を想う力を発揮できる子供たちを本校でも育てていきたいと思います。今学期も保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

嬉しいニュースが入ってきました。水泳の古賀淳也選手がレースに復帰、８月２９，３０日に辰巳で開催される東京特別大会の５０ｍ、１００ｍの背泳ぎに出場が決まったそうです。毎年子供たちに（大人にも）熱い思いと夢を語ってくれた古賀選手をこれからも四六は応援していきたいと思います。

開校９５周年に向けて

特別活動部主任

四谷第六小学校は、今年度で開校９５周年を迎えます。そこで、お祝いの気持ちを込めて、在校生全員で体育館に記念幕を作りたいと思います。記念幕のデザインは、代表委員児童が中心となり、在校生に案を募集しました。それぞれの学年らしい素敵なデザインがたくさん集まりました。今後は、各クラスで色付けをし、10 月 17 日の記念集会で披露する予定です。

これらの活動を通して、児童の愛校心を高めるとともに、四六小の良き伝統を大切にしていく気持ちを育んでいきたいと思います。

防災教室

○令和２年９月２６日（土）
○１校時：警官宣言発令時に向けた避難訓練
　　発災時の学習
※２・３校時は通常授業です。今年度は、地域と合同の防災訓練は行いません。

スポーツフェスタ

○令和２年１０月２１日（水）
【雨天延期…１０月２３日（金）】
○１・２校時：１～３年
　３・４校時：４～６年
○体育の学習の成果（陸上運動やギネスでの取り組み）を発表します。詳しくは、学年だより（１０月号）をご覧ください。